



名古屋市教育委員会との連携事業 成果発表会

高大連携探究活動「なごや未来の種クエスト」

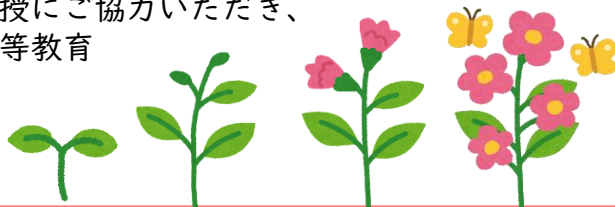
2026年3月14日（土）、本学桜山キャンパスにて探究活動成果発表会を開催しました。

本イベントは、名古屋市立の高等学校で行われている「総合的な探究の時間」などの授業での学びの成果を高校生が発表し、大学教授や講評者、参加者との質疑応答を通じて新たな気づきを得る場として、3回目の開催となりました。

今回は4教室に分かれて28の発表と質疑応答が行われ、その後、各教室の代表4チームがさくら講堂で発表しました。本学からは、薬学研究科の井上靖道教授、人間文化研究科の上田敏丈教授、林浩一郎准教授、理学研究科の河田成人教授にご協力いただき、各教室で講評を行いました。また、代表発表では高等教育院長の伊藤恭彦教授より講評を、さらに学長の浅井清文教授からは全体総括をいただきました。

どの発表も高校生ならではの視点や自らの興味関心が反映されており、探究活動の集大成にふさわしい内容でした。また、講評や質疑応答を通じた交流により、生徒たちが学びをさらに深める貴重な機会となりました。

さらに、今回は市立高校の有志による実行委員会が中心となり、「なごや未来の種クエスト」というイベント名やロゴ、チラシ作成、当日の司会・運営まで担当しました。高校生自身が企画・運営する、高校生のためのイベントとしても大きな成果を上げました。



キャリア教育

2026年3月17日（火）、産学連携特別プログラム（中学生向けキャリア教育）の成果発表会を開催しました。

本イベントは、昨年11月26日（水）、27日（木）に本学で開講した、地域課題に基づく講義を踏まえ、名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校の生徒たちが学びの成果を発表するものです。

当日は、普段過ごしている学校とは違う大学の講義室で、本学の教員をはじめ保護者や本プログラムの関係者など、多くの観覧者が見守る中での発表となりました。生徒たちは緊張した面持ちを見せつつも、「少子高齢化」というテーマを自分たちの地域の課題として捉え、具体的な提案や多角的な視点を盛り込みながら堂々と発表しました。

観覧者からは「11月の講義時と比べて大きな成長が感じられた」といった声も寄せられ、生徒たちにとって学びを深める貴重な機会となりました。

本プログラムを通じて、地域課題に主体的に向き合い考える力を育むとともに、大学と地域社会との連携の意義を改めて実感する場となりました。



1 「健康・スポーツ科学」に代わる新たな必修科目を設置しました！

令和7年度まで全学部の必修科目であった「健康・スポーツ科学」に代わって、令和8年度より「名市大生としての第一歩」を新たに全学部の必修科目として設置しました。（データサイエンス学部は、令和9年度より適用）

本科目では、名市大が果たすべき役割の自覚を学生に促し、キャリア等の分野から「未来を切り開く人材」となるために必要な姿勢及び深刻化する少子高齢化から自身と家族の健康リスクを理解し、疾病等から守る方法の学修を目的としています。

2 高等教育院に在籍するネイティブ語学教員担当の英語を選択必修化しました！

第四期中期計画における重要戦略として「国際化」を掲げており、学生に確かな英語能力を身に付けさせるために、令和8年度より全学部において高等教育院に在籍するネイティブ語学教員が担当する英語科目を選択必修としました。これらの科目は座学よりも英語を使って何かすることを重視したプログラムであり、より実践的なコミュニケーション能力を身につけることができる機会を全学部に提供できるようになりました。



3 「名古屋市立大学多職種連携教育：基礎」をリニューアルしました！

令和7年度まで医学部、薬学部薬学科の必修科目として「名古屋市立大学多職種連携教育：基礎」を毎年2単位で設置していましたが、社会や医療現場から医療者に求められる資質・能力の変化に対応するために、令和8年度より「医療系多職種連携教育：基礎-1、2」として、前後期各1単位の2科目に細分化しました。

FD・SD講演会を開催しました



令和8年3月23日（月）、「学生のメンタルヘルス」をテーマに、オンラインにてFD・SD講演会を実施しました。本講演会は、近年、本学でも学生のメンタルヘルスに関する課題が多様化・複雑化していることを踏まえ、教職員の理解促進および対応力の向上を目的として開催しました。

講師には、長年にわたり学生支援の最前線で活躍してこられた名古屋大学の杉岡正典准教授を迎え、各研究科・学部に対して事前に実施した調査結果を踏まえた講演が行われました。講演では、学生のメンタルヘルスケアに関する基本的な考え方から、困難を抱える学生への具体的な対応方法や支援の在り方について幅広く解説がなされました。

106名の方にご参加いただき、本講演を通じて、教職員が学生支援に必要な視点や実践的な知識を共有し、今後の学生支援を考えるうえで有意義な機会となりました。

全学的学生支援体制の必要性	
	<p>ここが大事 連携・協働</p> <p>第3層 専門的學生支援</p> <p>第2層 制度的學生支援</p> <p>第1層 日常的學生支援</p>
	<p>精神科医・カウンセラーなどの専門家による支援・教職員との連携（保健管理センター、学生相談機関、など）</p> <p>役割を担う教職員による具体的対応（クラス担任、実習指導、何でも相談窓口など）</p> <p>教職員と学生の日常的関わり、教育を通じた成長支援（研究指導、研究室運営、窓口業務）</p>

困難を抱える学生の就学支援のまとめ

- 現在、うつ、発達障害、トラウマなどメンタルヘルス問題は、裾野が広がっている
- 大学教育・学生生活に近接した困り事が多いため、教職員と専門家がそれぞれの立場から連携して行う教育・就学支援が求められている。
- 学生の気質には流行もあるが、教育の本質である教員と学生との間の「人としての関係性」と「本気で対話する」ことの意義は変わらない。教職員が元気であることが極めて大切と思う。

